



今年は寅年です。十二支＝動物のイメージが定着していますが、そもそも十二支は動物を指すものではなく、日付や時刻、方角を表すものでした。中国から十二支が伝わってきたのは日本だけではありません。十二支はシルクロードの交易を通じて、ベトナムやモンゴル、インドなど、世界のさまざまな国へ伝わっていったとされています。調べてみると新しい発見に出会うことが多いですね。本を読むことで新しい世界を広げるきっかけを作ってみてはいかがでしょうか。

【展示コーナー】

今年に入り、新着本が続々配架されています。

就職試験・教員採用試験などの対策本や問題集…

その試験勉強の合間にリラックスしながら読む

絵本…など

皆さん、是非ご利用下さい。



【今月の 先生おすすめ本】

「もこもこもこ」 たにかわ しゅんたろう さく・もとなが さだまさ え 文研出版



「虫のこえ」という唱歌があります。「あれ松虫が鳴いている、ちんちろちんちろ、ちんちろりん」という歌い出しで始まりますね。虫の鳴き声が聞かれるようになると、私たちは、「ああ、秋めいてきたな」と感じます。ところが、この鳴き声を「声」として聞いているのは、日本人とポリネシア人だけなのだそうです。多くの国の人は、虫の声を雑音として聞くと、日本人とポリネシア人は、虫の声を雑音として聞き流すことはできないらしいのです。これは、右脳で聞か左脳で聞かによって違って来るようです。また、脳の特徴のみならず、日本は四季がはっきりしていることや、日本人特有の「自然観」とも深くかかわっているような気がします。「虫の声」を「虫の声」として感じる事ができる私たちは、感性が豊かであるといえるのかもしれません。

フランス留学時代に、フランス語の先生が、「日本人ってすごいよね。日本は雨が降るという表現がたくさんある。ざーざー、しとしと、ぱらぱら…フランスは、雨が降る、は、雨が降る、だよ」と言われたことがあります。そこで、はっとしました。確かに日本語には、雨の降り方に対する表現がたくさんあるな、と気づいたわけです。つまり、雨の降り方を感じ、雨の降り方の表現を変える私たちは、繊細な感性をもっているともいえるのではないのでしょうか。

「もこもこもこ」は、子どもの大好きな絵本です。感覚的な言語であるオノマトペで構成されており、まさに「感じる」絵本であるといえます。個人的には、意味を考えようとせずに、ただ感じながら、読んだり聞いたりすればいいと思っています。「もこもこもこ」と味わいながら、言ってみてください。きっと、一人ひとりで読み方が違うはずです。それは、感じ方が人それぞれだからです。あなたはどのように読みますか？

鈴鹿大学 短期大学部 南谷悠子准教授

※卒業を迎えるみなさん・・・図書等を借用中の方は、2月21日までに必ず返却願います。

※在学生のみみなさん・・・春休みの長期貸出(返却4月15日)をおこないますので、ぜひ活用ください。

※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、図書館の一般の方向けの開放を中止させて頂きます。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解の程よろしく願いいたします。